



# 活動報告書 2021



## 利用者インタビュー



拠点型学習支援を利用  
りょーた（高3）

### Q. 印象に残っていることは？

写真部（※1）で円山動物園に行ったとき。小学校の頃から遠足とかで色々行っているから、動物を見るという行為は飽きてたけど……。でも、撮影となると、それまで撮ってきた景色や植物とは違った難しさがあるから面白かった。カメラの使い方を新しく学べたのも楽しかった。

### Q. カコタムを利用する目的は？

家に居たくないから。最初は親に行かされたけど、行ってみたらカコタムのことを気に入って、そこからずっと行くようになった。最近は、誰々がいるからっていうのも半分くらいを占めている気がする。大人のメンバーもそうだし、拠点によっては来ている子どもも。

### Q. カコタムはどんなところ？

個人的には、学校とは別のところで、似たような境遇とかの子どもたちが集まっている場所が、カコタムだと思ってる。他の塾と違って、いろんな悩みとか抱えながら来ている人が、勉強以外のこととかも話せる場なのかなって思う。

### Q. カコタムらしさって何？

いい雰囲気、かな。人間関係が、和気あいあいとしていて、かと言ってベタベタもしてない、ちょうどいい距離感。言いたくない話は深掘りされないから、楽なんだよね。

※1 写真部：2017年～2019年にかけて実施していた、Kacotam内の部活動のひとつ

毎年Kacotamでは、子ども、保護者、支援者、メンバー等へインタビューを実施しています。このページで紹介しきれなかった数々の「声」は、Kacotamの公式noteにて掲載していきます。是非、コチラもチェックしてみてください！



<https://note.com/kacotam>

### Q. 利用し始めた経緯は？

（札幌にいた頃）中学生のときに始めて、エルプラザとゆるきちに通ってました。卒業して高校は受かったんですけど、結局オーストラリアに行きました。今年になって勉強のやる気を失ってしまって。今は身近に勉強を教えてもらえる人がなくて、カコタムがあったらよかったなと思ってメールしたんです。もしオンラインでできるのであれば、ということで。



オンライン学習支援を利用  
ジョシュ（高3）

### Q. 印象に残っていることは？

中学生の頃の受験カコタムが懐かしいです。あのときは本当になんか楽しかったんですよね。カコタムに行って勉強を教えてもらったり、大学生の人とかとお話できたり。オーストラリアではそういう場がないですから。

### Q. お仕事カコタム（※2）はどうだった？

すごい面白かったですよ。なかなか聞けない話でした。進路に関して自動車系で迷っていて、それでお仕事カコタムで話を聞かせてもらいました。よくある大企業のイメージと違って、縦だけじゃなくて横の関係もできているという話を聞いてイメージが変わりました。あの企画は本当に良かったです。

### Q. カコタムの魅力はどこ？

年上の人と話せるところですかね。学校だと、同学年か、1、2年離れているくらいの人としか話せないから。社会のことや大学のことを話してくれるのが良いです。

※2 お仕事カコタム：興味のある職業の人に話を聞きに行く活動。自動車開発をしている人へオンラインで話を伺った。

### 保護者の声（息子と娘がスタサポに参加）

家庭でも、（カコタムの活動が）終わった後、誰々とかいう話したとか、趣味の話で盛り上がったとか、教え方がわかりやすかったとか、そういう話が出ます。イベントがあったときは、すごく楽しかったようでした。カフェで自分のメニューを作ったとか、自転車で遠出したとかもちょっとした自慢話になっています（笑）。色々な自信とかに繋がっているなと思うし、普段経験できないことをさせてもらっている感じがします……！



### 訪問型学習支援を受け入れている施設職員の声

（いま担当してもらってる子が）施設に来た頃は、問題行動があつてとても不安定な時期でした。施設での不安とか学校のトラブルとかを色々聞いてなだめてもらったり、自分自身が抱えている問題に対するクッションになったりしてくれて、本人も救われたと思います。メンバーは聞き上手で、共感とか受容とかのやり取りが非常に上手い。今ではその子も穏やかになってきて、メンバーの前では本当に素直に自分を出しています。



# 東京支部 が始動しました！

これまで札幌市を中心に、北海道内での活動を進めてきましたが、4月より、新たな学びの場を広げる第一歩として、東京支部を設立しました。

## 設立経緯

北海道内で学習支援をはじめから9年が経過し、拠点数や関わる子どもの数は年々増えていました。一方で、活動に参加するボランティアメンバーの中には、進学や就職などで道外へ転居する人も多くおり、彼らの支援の輪がそこで途切れてしまうことを課題に感じていました。

そんな折に、東京都内で活動するNPO法人サンカクシャとのご縁があり、協働して都内で学習支援をしていく話があがりました。同じタイミングで北海道から東京都へ転居するメンバーが複数いたことから、彼らが中心となって新拠点を立ち上げることとなりました。道外へ活動地域を広げることは、Kacotamのビジョンである「すべての子どもが学びの機会に出会い、自己実現に向けて挑戦できる社会」へのさらなる前進となります。この東京支部をきっかけに様々なつながりを増やしていきます。

# 活動状況



初回の活動は4月7日。そこから東京は二度の緊急事態宣言に見舞われました。そこで、宣言発令中はZoomを用いたオンライン学習支援を行ってきました。宣言が解除されてからは、対面活動を再開しています。

日時 水曜日 19時～21時 (月2回)

場所 サンカクハウス要町

利用者 8名

メンバー 14名

※NPO法人サンカクシャの全面協力のもと、活動場所をご提供いただいております。



<https://kacotam.com/tokyo/>

# Challenge クラウドファンディング実施！



2021年4月よりスタートした東京支部。  
新しい「学びの機会」を各地に広げる第一歩として  
踏み出した。

## 立ち上げ担当 / 支部コーディネーター 中村大希



私が札幌から東京に転居することになった時、Kacotamの活動を継続的に全国に広げていきたいという思いがあり、東京支部の立ち上げに手を挙げました。新しい地で活動をはじめることの大変さはもちろんですが、それ以上に、安定して事業

を継続させることの難しさもまた、強く実感した1年でした。そんななかでも、クラウドファンディングをはじめ多くの支援をいただき、一緒に活動を作ってくれる仲間もできて、少しずつ、安定的な活動に育ってきました。これからも、必要とするすべての子どもに学びの場を届けるため、活動を作っていきます。やがてKacotamの場がすべての地域に広がるように。東京で、その第一歩を担います。

## 立ち上げ担当 児玉優子



進学に伴い札幌を離れることが決まった時に東京支部立ち上げの話があり、ぜひ自らの手で新しい学びの機会を作っていきたいという思いがあり、立ち上げから参加しました。これまで学習支援に関わるだけだったので、立ち上げに加わるということには緊張やプレッシャーもありましたが、これまでKacotamが活動してきた北海道からさらに学びの機会を届けていけることにとても喜びを抱いています。始まったばかりの小さな一歩ですが、様々な試行錯誤を重ね、東京支部にしかできない新しい試みをするによって少しずつ確かな歩みとなればいいなと感じています。

クラウドファンディング募集期間

2021年3月4日～4月3日

立ち上げにあたり、必要な資金を集めるために  
クラウドファンディングを実施しました。

支援人数 49名 支援総額  
544,000円



北海道内23ヶ所で延べ12,000人以上の子どもたちに『学び』と『居場所』を提供してきた認定NPO法人Kacotam。家庭環境に左右されることなく『やりたいこと』を見つけ、安心して『挑戦できる』場をすべての子どもに届けたい！学びの場を他の地域にも広めたい！全国へ向けた第一歩を東京でスタートします！

# 新たな拠点

# 一時保護所内の学習支援 ポル

一時保護所内で学習機会を提供し、子どもに寄り添い一人一人の声を汲み取りながら、学習においても生活においても孤立しないつながりをつくる。

## 概要

9月から、社会福祉法人扶桑苑が運営する一時保護所内において学習支援活動「ポル」をスタートしました。一時保護所内で日課となっている学習時間の運営をKacotamが担っています。子どもに寄り添いながら一人ひとりのニーズに合わせて学習の機会を保障し、今までの一時保護所内では、なかなか得ることのできない学習機会を提供します。

## 想い

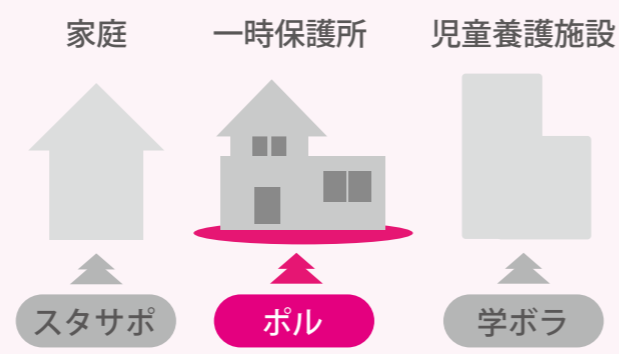
これまでKacotamでは、家庭にいる子どもにはスタサポ、児童養護施設にいる子どもには学ボラを通じて学習支援を行ってききましたが、一時保護所の子どもの支援をすることができていませんでした。今回のポルの取り組みにより、全ての過程にいる子どもに関わることができるようになりました。特筆すべきは、「平日毎日」実施しているという点です。今まで実施してきた活動拠点では実施曜日が決まっていたのですが、この頻度の高さは団体としても大きな一歩を踏み出したといえます。

## 展望

保護された子どもは、原則最大2ヶ月間という短期間、一時保護所で過ごすことになります。その中で、それぞれの子どもにとってよりよい環境をどう整えていくのか、日々試行錯誤しています。保護された子どもと直接の関係構築が可能のため、子どもの状況に応じて関わりを続けていくことができます。一時保護所から家庭に戻ったとしても、児童養護施設等へ行くことになっても、本人が望めば継続してKacotamを利用できるように調整することが可能となります。

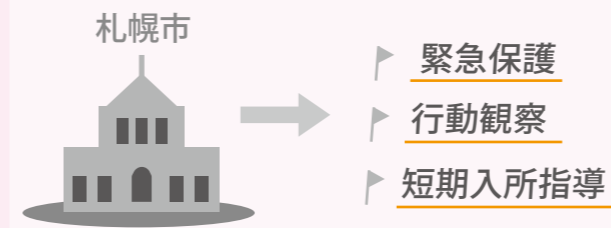
今後は、子どもとのつながりを生かして各活動との連携を図り、継続的に学びの環境を整えていくことを実践していきたいと考えています。学習に取り組める環境づくりに加え、子どもの「やりたい」をカタチにするプロジェクトや体験学習など、視野が広がる環境づくりを行っていきます。

### カコタムでの位置づけ



### 社会福祉法人扶桑苑とのこれまでのあゆみ

- 2012年5月 学ボラとして柏葉荘に訪問開始
- 2018年9月 スタサポ（うおーく拠点）を共同で開始
- 2021年9月 「ポル」開始



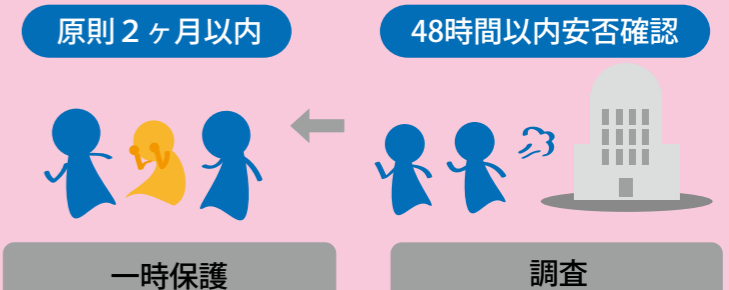
①緊急保護、②行動観察、③短期入所指導の3つの目的があり、主に子どもの生命や権利が脅かされる状況にあると児童相談所が判断したときに保護します。また、虐待通告があつてから原則48時間以内に安否を確認し、一時保護期間は原則2ヶ月以内と定められています。



### 一時保護所での学習支援がスタート



- 7:45 起床
- 8:30 朝食
- 9:30 居室点検・清掃
- 9:50 学習 (Kacotam 学習支援)
- 11:20 自由時間
- 12:00 昼食
- 13:00 自由時間
- 15:00 おやつ
- 15:30 ~ 16:30 入浴
- 18:00 夕食
- 18:30 就寝準備
- 21:00 就寝



### メンバーの声



ポルコーディネーター 板垣 優輝

活動を始める前は、一時保護所にいる子どもはどのような子なんだろう、と思っていましたが、活動してみるとみんないきいきと接してくれて、何も違うことなどないんだと感じました。ただ、ネガティブになってしまう子が多いのかなとは感じています。なので、私はなるべくポジティブな言葉を使って、子どもにも前向きになってもらえるようにしています。活動の中では特に、カタチ化で子どものやりたい気持ちや言葉がどんどん完成されていくのが印象に残っています。今後は色々な性格や学年の子どもともっと関わっていきたくと思っています。

# 2021年活動ダイジェスト

## ●2021年活動利用者数

■スタサポ

132名

■学ボラ

39名

■ゆるきち

27名

■ポル

9名

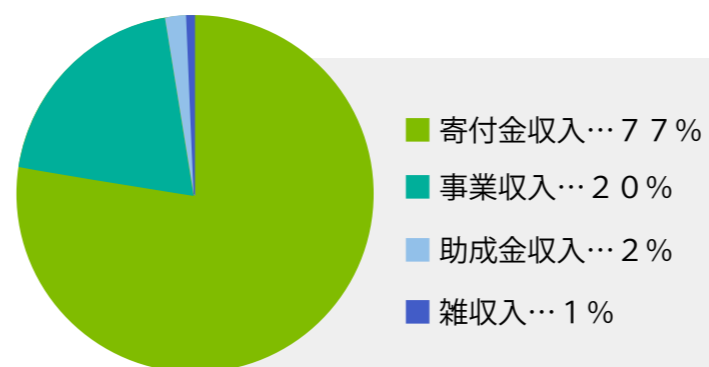
当年は、前年よりも利用者がやや減少しました。新型コロナウイルスの感染を不安に思い参加を控える家庭があり、新規利用の申込も例年よりも少ないことが要因として考えられます。

## ●拠点数・拠点利用者数推移

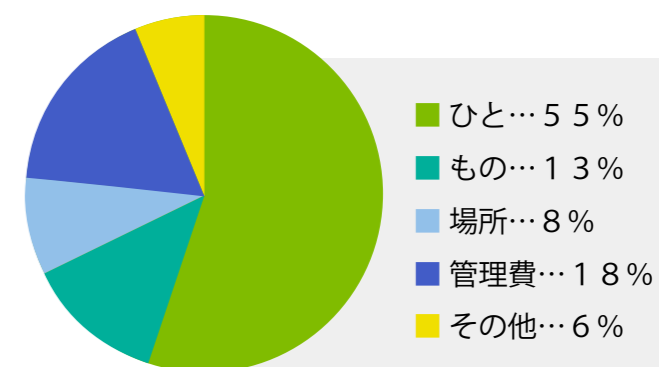
団体を設立した初年度の6拠点から、東京支部やポル、学ボラの訪問施設等、ニーズに応え現在では28拠点まで拡大となりました。



## ●収入概況



## ●支出概況



皆さまのご協力により、寄付金が前年よりも20万円ほど増加しました。これは、100万円の大口寄付が3件あり、継続寄付が増えたことが起因しています。当年は単発で不安定な助成金の活用を最小限に抑え、理想的な収入構成となりました。

私たちの活動は、人と人の関わりが重要な意味をもち、人件費や交通費など人に関わる費用が必要とされるため、費用構成の約55%を占めています。次いで学習支援の運営を管理する事務局の家賃や人件費などの管理費約18%、教材や消耗品などのものに関わる費用が約13%となりました。前年に引き続き、約1200万円の寄付を集めることができたことで、活動を充実させ、常勤職員を配置し、様々な地域への学びの場づくり展開に向けて一歩踏み出す年となりました。

最新の活動状況を  
公式WEBページや  
Facebook、Twitter、  
noteで発信しています。



カコタム

検索

<https://kacotam.com/>

## 子どもの「やりたい」をカタチにするプロジェクト



「やりたい」という声を上げるきっかけづくりとして、これまでに実施したカタチ化プロジェクトをまとめた「カタチ化カタログ」を作成し、スタサポや学ボラで関わる子どもへ配布しました。カタチ化カタログがあることで、「何かやってみたいことと言われても…」という子ども、過去の様々な取り組みの中から「私もこれをやってみたい!」というように、最初の「やりたい」という声が上がると、また次の「やりたい」につながるものが多くあります。

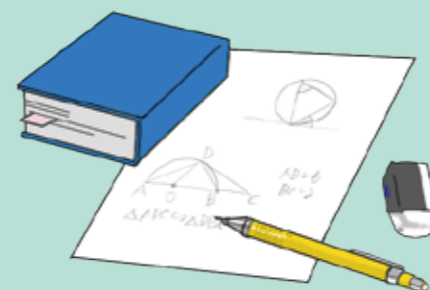
## お仕事カコタム



獣医師に興味を持っていた高校生と、札幌市円山動物園の獣医師を訪問しました。動物の標本や手術室を見学したり、獣医師になるまでの話や動物園における獣医師の役割などを聞いたりしました。これまで以上に獣医師への興味が高まったようでした。訪問後はより勉強に熱が入るようになり、自分の進路に向けて歩きはじめています。当年は、お仕事カコタムとして管理栄養士や理学療法士の方からお話を伺った子どももいます。

## KacoNavi

中高生が自習するためのスペースです。学生のメンバーが自主的に企画をして試験運用を行っています。参加している子は目標に向かって黙々と取り組んだり、子ども同士で相談したりしています。自習中にわからないところがあればすぐに質問できる環境を整え、ノートの取り方等アドバイスも行っています。



## 苫小牧支部での学ボラ開始

これまでスタサポを実施していた苫小牧の拠点からメンバーが参加し、苫小牧市から少し離れた室蘭市において学ボラがスタートしました。3月から準備を始め、5月には施設において活動を行う予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言がたびたび発令された影響で、10月ようやく顔合わせをできることとなりました。度重なる延期により、施設側や利用する子どもに受け入れてもらえるのか不安な面もあったものの、無事に10月下旬より活動を開始することができました。



メンバーの声 平澤 里奈

どのように子どもとの距離感をつかむか悩むこともあります。子どもと一緒に学習に向き合うことに全力を注ぎ、少しでも楽しいと感じてもらえる空間づくりを意識しています。子どもから嬉しい反応をもらえると、もっと力になりたいという意欲が湧きます。

# ゆるきち 5周年

ゆるきちは「特に何かをすることもなく、ただ居ることが許されるけど、一人じゃない場」、そして「何かに挑戦したい!」を応援してもらえる場です。のべ2700名の中高生との出会いは、どれも思い出深いものになっています。



ゆるきちとは

子どもとの関わりを高くし、子ども自身の意志で来ることができる場を作りたいと考えていたときに、一軒家を貸していただき実現した「中高生のオープンスペースゆるきち」。中高生と一緒に考えたコンセプト「自分の考えや行動が大事にされ、思いや感情を表現できるゆるい空間」に基づき運営し、当年で5周年となりました。

初めての常設の拠点、やる事が決まっていなかった、担当制でもない子どもとの関わりなど、Kacotamとしても挑戦の場となり、試行錯誤して進んできました。

## 保護者の声

通ううちに勉強が好きになって、継続することによって成績も向上して、またさらに楽しくなって。周りの影響で資格とりたいとか、検定受けたりと。あと自分の趣味とか興味を持ったことに何でも挑戦するようになって。何でもできるまで最後までやり続けて、親としても自分もできていない部分もあるからすごいなって感心したり、教えられる部分は大きいかな。



## メンバーの声

ゆるきちは私の居場所で単純に楽しむ場所でした。しかしメンバーとなってから、ゆるきちを見る目線が変わりました。遊びをするとき子どもたちに合わせて力加減を考え、その場に必要なことは何かを意識しながら過ごすことが大事で、ただ単純に楽しい場所ではなく子どもたちの興味関心を拾い上げる場所だと感じます。



ゆるきち  
コロナ禍の

緊急事態宣言での臨時休館を経て、開館のために、加湿器やサーキュレーターの導入、片付けの際の消毒などの感染対策、事前利用予約での来館予定の把握等の取り組みを行ってきました。

また、メンバーも人数制限があるため、ビデオチャットアプリを使ったりリモート参加を試み、子どもと会話を楽しんだり、テレビゲームのオンライン対戦をしたりと、遠方でも可能なコミュニケーションが定着しました。

私が子ども時代を過ごした家が、今も子どもや若者たちの活動の場としてお役に立てていることを嬉しく思います。  
コロナ禍の今こそ、人と出会い、学び、安心して過ごせる場所は貴重になってきていると思います。

大家  
けんちゃん言葉

11月7日、Facebook Liveにて記念式典兼活動報告会を開催しました。

式典の内容の検討、当日の飾り付け、動画作成、日本語と英語での司会やリアルタイムでのルームツアーなど、現在利用中の子どもや卒業生から多くの協力を得て、様々なコンテンツを提供することができました。

5周年記念式典  
(活動報告会)



5周年記念式典でも流れた卒業生が作った動画「ゆるきちと私」の二次元コードです。

# コロナ禍での学習支援

北海道・札幌市にまん延防止等重点措置や緊急事態宣言が発令されたことにより、対面での活動は休止しました。その代替として、2020年の一斉休校期間中に実施したものの形式に変更を加えて実施しました。

## LINE学習相談

実施期間 2021年5月～9月  
利用者数 20名



分からない問題や苦手な箇所をいつでも質問できる場として、LINE WORKSを活用した学習相談の取り組みを行いました。子どもが各自のタイミングで質問を送ると、担当メンバーがその解説やアドバイスを返信するというものです。実施期間後も継続して利用を希望する子どももいました。

### 活動メンバーの声

LINE学習相談の強みは、子どもが聞きたい時に聞きたいことを聞けることだと考えていたので、質問が来たらなるべく早く返信するように心がけていました。

LINE学習相談は対面の活動に比べ、子どもとの会話のテンポが異なり、慣れるまでに苦戦しました。しかしこの経験は、子どもにとって伝わりやすい言葉がどのようなものなのかを考える良い機会になったと思います。



寺井 貴宏

## オンラインスタサポ

実施期間 2021年5月～9月  
利用者数 23名



Zoomのビデオ通話機能を利用したオンライン自習室の実施から、ブレイクアウトルーム機能を利用することにより、メンバーと子どもが1対1で学習する空間を作るオンラインスタサポに移行しました。この形式は受験カコタム等でも用いられ、緊急事態宣言下でもつながりを途切れさせずに活動に取り組むことができました。

最初と最後の時間や休み時間にはメインルームに集まり、他のメンバーと顔を合わせるなど対面に近い雰囲気を作ったり、部屋にあるお気に入りのものを子どもが見せてくれたりと、新たな交流も行うことができました。

## あうるねっと開始！

LINE学習相談等の活動を通して検討を重ねた結果、オンラインでの学習支援を継続的な活動として開始しました。

Google Meetでビデオ通話をつなぎ、子ども・メンバー共に書き込めるホワイトボードのアプリJamboardを用いて学習を進めています。

札幌市内外、さらには海外にも利用者が広がり、お仕事カコタムにつながる事例も出てきています。

### 活動メンバーの声

海外に住む高3を担当しました。活動時は何度か回線トラブル等があり、また、対面に比べ互いに一歩理解が遅れる欠点もありましたが、事前に質問内容を送ってもらい時短する方法を取りました。結果、勉強面に限らず、進路やちょっとした雑談にも時間が取れたことで、お仕事カコタムにも繋がりました。

オンラインでも多面的な関わりができたのはサポート側としても幸運だったと感じています。

# システム開発室



<https://si-team.kacotam.org>

## 知られざる私たちの強み！

10拠点・17施設、186名の利用者、204名のボランティアメンバーの活動が、常勤職員たった2名で動いていることに、驚きの声を寄せられることが度々あります。そこには、活動の変化にあわせて進化する独自開発の基幹システムを制作したり、広報活動のために必要なWEBページを制作したりできるシステム開発室が欠かせません。非IT系の同規模の団体において、システム開発・WEB制作の専門部門を持つところは類を見ない、当団体の強みの一つです。

新しい活動が多く始まった当年の活動が円滑に進んだ背景にも、システム開発室の功績は小さくありません。

## 独自開発の基幹システムをリニューアル

当団体では、活動を支える基幹システム（Kacotam Portal）を独自開発して使用しています。当初は出欠集約の機能のみでしたが、必要な機能を継ぎ足しで追加することになり、システムとしての複雑さが増してしまっていました。今後の団体の変化に対応していくのが難しい状況になっていたため、1月に大幅リニューアルを行いました。各種統計情報や寄付者名簿出力の機能強化、活動実績の関係団体への自動送信機能の追加、出欠登録機能の利便性向上などをしました。リニューアルにより、新しく始まった各活動に必要な機能の追加もスムーズに行えました。

## システム開発室のこれまで

- 2017年1月 システム開発室発足
- 2017年4月 団体WEBページリニューアル
- 2017年5月 独自の業務システム運用開始
- 2019年5月 団体WEBページリニューアル
- 2019年9月 ゆるきちWEBページリニューアル
- 2019年9月 PyCon JPにてポスター発表
- 2021年1月 独自の業務システムリニューアル
- 2021年3月 東京支部WEBページ公開
- 2021年10月 寄付ページリニューアル

### 活動メンバーの声 齊藤 勝也（システム開発室 室長）



未経験からエンジニアに転職したばかりの頃、自身の勉強を兼ねて作ってみたいシステムが、今やカコタムの活動にあって当たり前のもので、なくてはならないものになっていることを大変嬉しく思います。

## 東京支部WEBページ制作



初めての道外拠点となる東京支部の開設にあたり、その顔となるWEBページを制作しました。システム開発室にボランティアとして参加している高校生メンバーが制作の中心を担い、東京支部立ち上げメンバーからの要望を聞き、1ヶ月程で制作しました。

## 寄付ページリニューアル



リニューアル前の寄付ページには、寄付金額に応じてできるようになること、寄付の方法、税制上の優遇措置についてのみ掲載されていました。寄付をご検討いただく際、当団体の活動内容や実績については、別のページを複数参照していただく必要があり、寄付を

新しくなった寄付ページを是非、ご覧ください！



ご検討いただく上での一つの障壁となっていました。これを解決するために、寄付ページのリニューアルを行いました。

リニューアル後は、活動の背景から実績、利用者や支援者の声なども掲載し、ページ内で寄付の手続きまでできるようにしました。

# 2022年にむけて

2022年は、前年に引き続き、組織体制の整備と学習に取り組める環境づくりのより一層の拡大を進めていきます。また、子どものニーズに応じて学びの場につなげられるような取り組みも併せて検討していきます。

## 🍀 組織体制の整備

現場運営を担うメンバーが少なく、新たな拠点づくりをスピード感をもって進められない現状があります。2022年前期では、そのコアとなる人材を確保し、少しずつ引継ぎを行いながら、現場が安定的に運営される体制を構築していきます。

全メンバーに対する  
現場運営を担うメンバーの割合



## 🍀 札幌市内外の活動展開

児童相談所への相談件数も多く、生活保護世帯も多い白石区内でのスタサポの新拠点開設に向けて進めていきます。また、札幌市から離れた地域にある児童養護施設において学ボラを展開できるように、施設との調整と人材確保を進めていきます。

## 🍀 アウトリーチの展開検討

拠点型の活動をいきなり利用するにはハードルが高いという子どもの相談が少なくありません。そのような子どもに学びの機会をつなぐために、自宅に訪問して関係構築を図り、適切な資源をつなぐアウトリーチの実施を検討していきます。

当年もKacotamの活動を様々な面で支えていただき、ありがとうございました。東京支部立ち上げやKacoNaviなど、各メンバーの自発的な行動によって、新たな地域における展開や活動形態が生まれました。また、代々の学ボラメンバーが積み上げてきた活動実績や信頼によって、社会福祉法人扶桑苑と協働で一時保護所の学習支援「ポル」も開始することができました。一人ひとりの存在によって、現場が変わり、組織が変わり、そして地域を変えようと考えています。



その一歩を踏み出す1年となりました。

2022年で、活動を開始して10年が経ちます。皆さまの支えがあったからこそ、10年間途切れることなく、継続して活動することができました。これからも「すべての子どもが学びの機会に出会い、自己実現に向けて挑戦できる社会」を目指して活動して参ります。

認定NPO法人 Kacotam 理事長 **高橋 勇造**

# 支援の輪



株式会社サンゲツ北海道支社様から、ゆるきちへ、ふかふかのラグをご寄贈いただきました。また、床冷え対策や階段の滑り止めについても相談にのっていただきました。



ゆるきちの「欲しいものリスト」を、Amazonの「みんなで応援」プログラムに掲載いただき、多くの方から生活用品や学習道具等のご支援をいただきました。

当年もKacotamの活動を応援していただき、ありがとうございました。直接のご寄付以外にも、数々のご支援をいただきました。



北海道IT推進協会様から、Chromebook(ノートパソコン)15台をご寄贈いただきました。オンラインでの学習支援活動等に、活用しています。

## その他の協力団体等 (順不同・敬称略)

- ハピぼん事務局
- しんぐるまざあず・ふぉーらむ北海道
- 藤女子大学(隈元ゼミ)
- NPO法人ねっこぼっこのいえ
- NPO法人陽だまりの家
- NPO法人麻生キッチンリあん
- 琴似連合町内会
- あさぶ商店街
- COCOTOMA
- 社会福祉法人扶桑苑
- 公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会
- あすかの森認定こども園
- NPO法人サンカクシャ
- 認定NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ
- NPO法人CAN



**A10th Anniversary**  
<https://kacotam.com/10th/>

Kacotam は、2022年1月1日で、設立から10周年を迎えます。10周年記念となる2022年度は、これまでのご支援に対する感謝の想いを込めて、記念行事の開催や特別プログラムの実施を検討しています。詳細は、決まり次第、特設WEBサイト等で発表して参ります。





## 寄付金をいただいた企業・団体



※敬称略・順不同

株式会社ラプト	株式会社ハマーズ	社会医療法人平成醫塾 苫小牧東病院
札幌西ライオンズクラブ	アクセンチュア株式会社	一般社団法人 MDRT日本会
北海道労働金庫 札幌北支店	札幌ライラック ライオンズクラブ	株式会社 APクリエイション
KDDI株式会社 北海道総支社	株式会社ダンテック	税理士法人 すずらん総合マネジメント
アマゾンジャパン 合同会社	株式会社ア・ド建築工房	旭イノベックス株式会社
しんぐるまざあず・ ふおーらむ北海道	札幌時計台 ライオンズクラブ	北海道生活協同組合 連合会
国際ソロプチミスト札幌	中原圭祐 公認会計士事務所	株式会社オガワヤ
有限会社千両ビル		



発行 認定NPO法人Kacotam  
活動報告書制作委員会  
(高橋・児玉・斉藤・高野・中村・丸藤)  
発行日 2022年3月31日